

2021 年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	3	開講区分	前期	担当教員			松田 輝洋 先生	
授業科目名		運動療法学Ⅱ		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15	
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 急性期リハビリの臨床経験のある教員による授業である。本教科では、臨床現場で接する機会の多い循環器系・呼吸器系に関連する領域の基礎知識を広く理解し、それぞれの疾患に対応した理学療法の評価と治療法の基本を身につけることである。</p>												
<p>〔到達目標〕 循環、呼吸に関する解剖学・生理学的な基本知識を整理し、循環・呼吸機能の評価、問題点抽出、治療到達目標設定と運動療法のプログラム作成、リスク管理などについて講義および実習を行う。 ・循環器の病態や診断基準、治療について理解する。 ・呼吸器の病態や診断基準、治療について理解する。</p>												
〔使用教材、参考文献等〕 なし						〔準備学習・時間外学習〕 各回の授業開始時に前回授業の振り返り小テストを行う。専門用語の理解も問われるため復習して授業に臨むことが望ましい。						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)						
1	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション 【内部障害】 内部障害総論 【循環器】 循環器理学療法総論 					内部障害の範囲について理解する。酸素搬送系の障害を理解し、説明できる。						
2	<ul style="list-style-type: none"> ・【循環器】 解剖・生理 確認・復習 					循環、呼吸、代謝、排泄の生理学を復習する。						
3	<ul style="list-style-type: none"> ・【循環器】 検査・測定① 					循環器系の役割と運動時の循環器系のメカニズムを理解し、疾患の評価を理解できる。						
4	<ul style="list-style-type: none"> ・【循環器】 検査・測定②(運動負荷試験) 					栄養障害の原因をふまえ、骨格筋や運動耐容能に与える影響を説明できるようにする。						
5	<ul style="list-style-type: none"> ・【循環器】 検査・測定③(心電図) 					正常心電図波形を理解する。						
6	<ul style="list-style-type: none"> ・【循環器】 運動療法① 実技 疾患各論①・② 					各循環器疾患の疫学的特徴を理解する。実技にて心拍変動をみるため心電図モニター観察する。						
7	<ul style="list-style-type: none"> ・【循環器】 運動療法② 実技 疾患各論③・④ 					各循環器疾患の疫学的特徴を理解する。実技にて心拍変動をみるため心電図モニター観察する。						
8	確認テスト											
9	<ul style="list-style-type: none"> ・【呼吸器】 呼吸器系の解剖・生理 					呼吸器系の解剖・生理学について復習し、呼吸リハに必要な内容を説明できる。						
10	<ul style="list-style-type: none"> ・【呼吸器】 検査・測定① 					呼吸器疾患の特徴と必要な検査測定について理解する。						
11	<ul style="list-style-type: none"> ・【呼吸器】 検査・測定② 					呼吸器疾患の特徴と必要な検査測定について理解する。						
12	<ul style="list-style-type: none"> ・【呼吸器】 運動療法① 					呼吸器疾患に対する理学療法の役割を理解し、リスク管理の重要性を学ぶ。						
13	<ul style="list-style-type: none"> ・【呼吸器】 運動療法② 					呼吸器疾患に対するトレーニングの効果や運動強度の必要性を理解する。						
14	<ul style="list-style-type: none"> ・【その他】 その他内部障害について 					腎機能障害・がんにおける各種治療から生じる、理学療法の対象障害を理解し、説明できる。						
15	期末テスト 解説											
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						〔特記事項〕						

2021 年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部 授業科目名 <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">義肢装具学実習</p>	学年 3	開講区分 前期	担当教員 山本 真秀 先生	時間数 (単位)	30 (1)	授業回数 15
[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 臨床経験が豊富な理学療法士が、装具の概要を説明し、下肢装具を用いた歩行分析などを実際に行う。毎年国家試験には数問出題され、また、臨床の場において、装具は必ず必要になる。しっかり復習して授業に臨んでほしい。						
[到達目標] 1: 装具の目的について理解できる。 2: 疾患別装具の適合について理解できる。						
[使用教材、参考文献等] 義肢装具学テキスト(南江堂)			[準備学習・時間外学習] 専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習しておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。			
回	[授業概要]		到達目標(できるようになること)			
1	授業オリエンテーション 装具総論		装具の概念を理解できる			
2	装具を理解するための運動学 装具の役割 生体力学 運動力学		運動学を通して装具の役割を実践できる			
3	装具に使用される部品 名称、継手、ストラップ		装具に使用される部品、名称、継手、ストラップを実践できる			
4	長下肢装具		長下肢装具の各部名称や機能を実際の装具で実践できる			
5	短下肢装具		短下肢装具の各部名称や機能を実際の装具で実践できる			
6	靴型装具		靴型装具の各部名称や機能を実際の装具で実践できる			
7	下肢装具チェックアウト		下肢の装具について糸通り説明できるようになる			
8	確認テスト 解説		テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。			
9	免荷装具・特別股装具		免荷装具・特別股装具の各部名称や機能を実際の装具で確認できる			
10	上肢装具1		上肢装具1の各部名称や機能を実際の装具で確認できる			
11	上肢装具2		上肢装具2の各部名称や機能を実際の装具で確認できる			
12	上肢装具チェックアウト		上肢の装具について糸通り説明できるようになる			
13	頸部・体幹装具1		体幹装具1の各部名称や機能を実際の装具で確認できる			
14	頸部・体幹装具2とチェックアウト		体幹装具2の各部名称や機能を実際の装具で確認できる			
15	期末テスト 解説		テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める			
[評価について] 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			[特記事項] 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。			

2021 年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部		学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名						室井 大佑 先生			
疾患別理学療法学Ⅱ(中枢神経系)		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 理学療法士として学術博士であり大学や専門学校で神経障害を生じる代表的疾患に対する基本的な運動療法の教授経験も豊富な講師が進め方(一般的評価、理学療法目的ならびに具体的方法、リスク管理)について学修する。専門科目である解剖学・生理学の神経系の構造と機能等を復習しておくこと。</p>									
<p>〔到達目標〕 中枢神経損傷による病態を理解し神経の構造と評価方法を説明できる。 更にそこから予後の生活やホープを長期・中期・短期的に考察しながらアプローチ手段を講じる事ができる。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕 随時、印刷物にて提示					〔準備学習・時間外学習〕 授業後、もしくは翌授業時は、小テスト行うこととする。そこで学習の復習が出来る様、ポイントを再学習してくれることは望ましい。				
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	・オリエンテーション 基本事項を学ぶ(中枢神経系)			本授業の目的と中枢神経系統における基本事項を理解できる。					
2	中枢神経の構造と機能を学ぶ。(グループワーク)			神経の構成(脊髄・脳幹)を説明できる。					
3	中枢神経の構造と機能を学ぶ。(グループワーク)			神経の構成(大脳・間脳・小脳)を説明できる。					
4	脳卒中に関する病態と画像診断			脳卒中(脳出血・脳梗塞・くも膜下出血・脳腫瘍等)の病態を画像から理解できる。					
5	脳卒中に見られる合併症とリハビリテーション			脳障害からの回復の構造とリハビリテーションの関連を理解できる。					
6	脳卒中と運動失調			脳卒中から引き起こされる運動失調を理解できる。					
7	高次脳機能障害①			高次脳機能障害に見られる(失認・失行)を理解できる。					
8	確認テスト			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	高次脳機能障害②			高次脳機能障害に見られる(失語・注意欠陥・知的障害等)を理解できる。					
10	中枢神経疾患から派生する障害の評価方法とアプローチ			起居動作障害・歩行障害・上肢機能障害等について評価方法とアプローチを理解できる。					
11	脊髄損傷・頸髄損傷への評価方法とアプローチ			脊髄損傷・頸髄損傷等について評価方法とアプローチを理解できる。					
12	胸髄損傷・腰髄損傷における評価方法とアプローチ			胸髄損傷・腰髄損傷等について評価方法とアプローチを理解できる。					
13	二次的機能障害について			二次的障害についてのリスク管理を理解できる。					
14	中枢神経系に関する疾患とリハビリテーション(グループワーク)			これまで学んだ内容をそれぞれ整理して説明する事ができる。					
15	期末テスト 解説			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 学生は自主的に発言し、内部疾患の病態やリハビリテーションについての理解を深める。				

2021 年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース:理学療法士科Ⅱ部		学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名		必修・選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
疾患別理学療法学実習Ⅱ		<p>[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 理学療法士として学術博士であり大学や専門学校で神経障害を生じる代表的疾患に対する基本的な運動療法の教授経験も豊富な講師が進め方(一般的評価、理学療法の目的ならびに具体的方法、リスク管理)について学修する。専門科目である解剖学・生理学の神経系の構造と機能等を復習しておくこと。</p>							
[到達目標]		中枢神経損傷による病態を理解し神経の構造と評価方法を説明できる。 更にそこから予後の生活やホープを長期・中期・短期的に考察しながらアプローチ手段を講じる事ができる。							
[使用教材、参考文献等] 随時、印刷物にて提示				[準備学習・時間外学習] 授業後、もしくは翌授業時は、小テスト行うこととする。そこで学習の復習が出来る様、ポイントを再学習してくることは望ましい。					
回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)							
1	オリエンテーション 基本事項を学ぶ(中枢神経系)	本授業の目的と中枢神経系統における基本事項を理解できる							
2	PDの症候・障害学的特徴を理解する	機能障害が進行し、活動制限・社会生活に支障(参加制約)をきたすことを理解できる							
3	PDの症候・障害学的特徴を理解する	起居動作(背臥位⇔端坐位)の運動学的特徴を理解する							
4	PDの症候・障害学的特徴を理解する	起居動作(背臥位⇔端坐位)を観察できる							
5	PDの症候・障害学的特徴を理解する	グループワーク:問題点抽出し、目標、Programを設定する							
6	PDの症候・障害学的特徴を理解する	理学療法を実施できる (グループごとに発表-1)							
7	PDの症候・障害学的特徴を理解する	理学療法を実施できる (グループごとに発表-2)							
8	確認テスト	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める							
9	SCDの症候・障害学的特徴を理解する	機能障害が進行し、活動制限・社会生活に支障(参加制約)をきたす							
10	SCDの症候・障害学的特徴を理解する	評価項目を列挙することができる							
11	SCDの症候・障害学的特徴を理解する	進行状況に合わせた理学療法を理解することができる							
12	SCDの症候・障害学的特徴を理解する	グループワーク:問題点抽出し、目標、Programを設定することができる							
13	SCDの症候・障害学的特徴を理解する	理学療法を実施することができる (グループごとに発表-1)							
14	SCDの症候・障害学的特徴を理解する	理学療法を実施することができる (グループごとに発表-2)							
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める							
[評価について] 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。				[特記事項] 学生は自主的に発言し、内部疾患の病態やリハビリテーションについての理解を深める。					

2021 年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部		学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名		必修/選択	必須	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
実習教育Ⅱ									
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>理学療法士として臨床で現場でリハビリテーションに貢献している教員が、実習をスムーズに遂行できるよう実習前後における姿勢と心構えを身につける授業を行なう。また、実践的な臨床実習場面を想定した、実技を中心に演習し評価実習および総合臨床実習に必要な基本的な知識、技能、態度を養う授業を行なう。臨床の現場で患者を配慮した安全で効率的な検査測定が重要となることを意識しながら受講してほしい。講義と演習の授業となるため遅刻欠席はせず、授業内だけでなく自主練習をして授業に臨んでほしい。</p>									
<p>〔到達目標〕</p> <p>①対象者に必要な検査測定を選択することができる。②選択した検査測定を正確かつ安全に実施できる。③患者の状態に応じた適切な介助を行うことができる。④検査結果の解釈を説明することができる。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕				
理学療法評価学 改訂第4版 臨床実習フィールドガイド (南江堂)					検査測定の目的、方法、動作介助方法を再度確認してくること。授業後は、復習をして確実に身に付けることが望ましい。				
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)							
1	臨床実習概要 専門職への適正およびふさわしい態度	専門職に必要な資質、態度について理解することができる。							
2	症例要約(レジュメ)作成概要	レジュメ作成に必要な項目を説明することができる。							
3	症例要約(レジュメ)における情報収集と問診	情報収集項目について述べる事ができる。 相手に配慮した問診を遂行することができる。							
4	症例要約(レジュメ)における情報収集内容の分析	情報収集内容より、対象者の状況を予測することができる。							
5	評価項目の列挙①	疾患に即した評価項目を列挙することができる。							
6	評価項目の列挙②	疾患に即した評価項目を列挙することができる。							
7	評価項目の列挙③	疾患に即した評価項目を列挙することができる。							
8	疾患を想定した検査測定①	疾患を想定した評価項目を挙げ、適切に実施することができる。							
9	疾患を想定した検査測定②	疾患を想定した評価項目を挙げ、適切に実施することができる。							
10	疾患を想定した検査測定③	疾患を想定した評価項目を挙げ、適切に実施することができる。							
11	疾患を想定した検査測定④	疾患を想定した評価項目を挙げ、適切に実施することができる。							
12	疾患を想定した検査測定⑤	疾患を想定した評価項目を挙げ、適切に実施することができる。							
13	疾患を想定した検査測定⑥	疾患を想定した評価項目を挙げ、適切に実施することができる。							
14	模擬患者による実技確認(OSCE①)	模擬患者に対し指示された検査測定を適切に実施できる。 習得できていないところを把握し、理解度を深める。							
15	模擬患者による実技確認(OSCE②)	模擬患者に対し指示された検査測定を適切に実施できる。 習得できていないところを把握し、理解度を深める。							
〔評価について〕					〔特記事項〕				
レポート、実技試験により成績判定。 評価は学則規定に準ずる。					事前に提示された課題について調べ、キーワードを説明できるように準備する。授業内だけでなく学生同士で実技練習を行い、技術向上に努めること。 疑問点は担当教員にアドバイスをもらうこと。				

2021 年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	3	開講区分	前期	担当教員			山野 英男 先生		
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15		
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>小児医師による授業である。小児科学では、小児疾患の原因・病態の講義と、小児の受胎から思春期に至る身体、言語、精神の成長発達段階の理解を通じ、小児の特徴及び疾患の理解を図る。</p>													
<p>〔到達目標〕</p> <p>理学療法士として必要な小児疾患の基本的知識を修得し、生涯にわたって小児のリハビリテーションに応用して実践できるようになる</p>													
〔使用教材、参考文献等〕							〔準備学習・時間外学習〕						
「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学」 富田 豊 編集、医学書院							子どもの生活に対する環境面の影響を理解するために、授業で取り扱う内容について自分の身近な環境の観察や考察を行うこと。						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)							
1	オリエンテーション小児科学とは					小児科学の概念を説明できる							
2	先天異常・遺伝病 新生児疾患					胎児の発達、遺伝の仕組み、新生児特有の生態を理解できる							
3	免疫・アレルギー疾患					基礎医学で学んだ免疫とアレルギーの仕組みが理解できる							
4	感染症					感染症とはなにか。人類と感染症の相互関係について理解できる							
5	先天異常・遺伝病 新生児疾患から感染症の診断					画像診断から各疾患における病態を理解できる							
6	新生児における疾患の特徴のグループ発表					新生児の疾患をグループ内で調べ発表できる							
7	感染症における疾患の特徴のグループ発表					感染症の疾患をグループ内で調べ発表できる							
8	前半の振り返り 確認テスト					ここまで扱った内容を説明できる							
9	呼吸器・循環器疾患					小児の呼吸機能、循環動態について理解できる							
10	消化器・内分泌疾患					小児の消化器の構造、機能および内分泌の仕組みについて理解できる							
11	血液・腫瘍疾患					小児の血液の役割、成分、腫瘍とは何か(悪性と良性の相違)を理解できる							
12	腎・泌尿器疾患					小児の腎臓の構造と機能を理解できる							
13	神経・筋・運動器疾患					小児の神経・筋・運動器疾患を理解できる							
14	小児の疾患の家族の理解					障害を持つ人やこころの問題について自分と他人との関係など思いめぐらせておく							
15	期末テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める							
〔評価について〕							〔特記事項〕						
評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。							毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。						

2021 年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部		学年	3	開講区分	前期	担当教員 佐藤 俊生 先生			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
生活環境論									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
日常生活に関わる環境因子を学習し、環境改善の手法を理解する。また、歩行補助具、福祉機器に関わる知識や利用方法を解説するとともに実習を行う。理学療法士がどのように生活環境に関わるかを説明し、対象者の生活改善に役立てる。									
〔到達目標〕									
日常生活活動と生活環境の関係を理解し、対象者の生活を向上するための提案ができる。									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕				
「日常生活活動学・生活環境論 第4版」(医学書院) 「福祉住環境コーディネーター2級テキスト」(東京商工会議所)					対象者の生活に対する環境面の影響を理解するために、授業で取り扱う内容について身近な環境の観察や考察を行うこと。				
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション生活環境論とは			生活環境論の概念を説明できる。					
2	生活環境と考慮したい概念			ICIDH、ICF、ノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザインなどの概念を説明できる。					
3	地域環境と公共交通			地域環境や公共共通における生活上の課題を予測できる。					
4	生活環境の評価			生活環境の評価について時期別の評価内容を説明できる。					
5	住環境における基本的な改善手法1 共通的な工事、介護保険と住環境整備			手すりの取り付けなど共通的に行う改修についてと介護保険における住宅改修について説明できる。					
6	住環境における基本的な改善手法2 校舎内の採寸			校舎内部の寸法を測定し、空間への配慮について説明できる。					
7	生活行為別の環境整備1 外出(敷地内から敷地外へ)			敷地内から敷地外へ移動する際に必要な改修について説明できる。					
8	前半の振り返り 確認テスト			ここまで扱った内容を説明できる。					
9	テスト返却 生活行為別の環境整備2 外出(玄関周辺)			家屋内から出る際に必要な改修について説明できる。					
10	生活行為別の環境整備3 屋内の階段 歩行補助具、車椅子について			屋内の階段を利用する際に必要な配慮を説明できる。					
11	体験(杖・車椅子の利用、介助)			歩行補助具、車椅子の特徴を説明できる。歩行補助具を使用した歩行や、車椅子の介助ができる。					
12	生活行為別の環境整備4 排泄			排泄行為に必要な要素と改修について説明できる。					
13	生活行為別の環境整備5 入浴			入浴行為に必要な要素と改修について説明できる。					
14	福祉用具について			福祉用具の種類や備えるべき条件を説明できる。					
15	まとめ			生活環境を踏まえ、生活について討議できる。					
〔評価について〕 筆記試験、出欠状況、課題、小テスト 評価基準については学則に準ずる。					〔特記事項〕				

2021 年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅱ部	学年	3	開講区分	前期	担当教員 水梨 将宏 先生			
授業科目名	日常生活動作学	必修/選択	必須	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

回復期リハビリ病院で理学療法士として勤務している講師による授業。日常生活を改善させるためには疾患・年齢・能力を理解し身体状況にあったADL支援機器の選択、基本動作、移動動作介助法・指導方法が必要になる。患者様の視点で考察して欲しい。

〔到達目標〕

理学療法士として日常生活活動(ADL)の重要性を理解する。本講義としてはADL評価の評価項目・目的・評価方法学ぶ日常生活活動障害に対する援助方法、ADL支援機器の選択、基本動作、移動動作介助法・指導方法を講義および実技にて学習する。

〔使用教材、参考文献等〕

ADL 羊土社
新版 日常生活活動 医歯薬出版
配布資料

〔準備学習・時間外学習〕

日常生活活動は、対象者だけのものではなく自分たちも普段の生活の中で行っていることである。常にどのようにすれば上手くいくのかを考えること。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	ADLの歴史	日常生活活動(ADL)の概念・定義・範囲・QOLを理解し説明ができる。
2	ICF	ICIDH/ICFの違いを理解し説明できる。
3	日常生活活動の目的	日常生活活動評価の目的を理解し説明ができる。
4	日常生活活動評価①	しているADL/できるADLを理解する。評価のポイントを習得し実践できるようになる。
5	日常生活の評価の実際	バーセルインデックスの評価を理解し実践できるようになる。
6	日常生活の評価の実際	FIMの評価を理解し実践できるようになる。
7	車椅子①	車椅子各箇所の名称・操作方法(実技)を理解し、指導できるようになる。
8	確認試験	筆記試験にて効果判定を実施、それにより自分が理解できていない箇所を把握する。
9	歩行補助具・車椅子	歩行車、歩行器、車椅子の種類を理解し患者の状態によって判断できるようになる。
10	杖の種類・指導方法	杖・松葉杖の種類を理解し患者の状態によって判断できるようになる。
11	車椅子②	車椅子チェック。リスク管理の観点から点検、修理ができるようになる。
12	車椅子③	車椅子チェック。リスク管理の観点から点検、修理ができるようになる。
13	補助具・自助具	自助具の種類、説明使用方法を理解し説明できるようになる。
14	自助具作成(ワンハンド爪切・湿布ハリ具・ソックスエイド・ボディブラシ)	現場で一般的に使用しているものを作成し、実用性があるか、修正が必要かを学ぶ。
15	自助具個人課題作成	自分が作成したものが実用性のあるものか。動作確認をして注意点、修正点等を確認できるようになる。

〔評価について〕

確認試験・期末試験とする。
評価は筆記試験で行う。
筆記試験は確認試験(50点)と期末試験(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

配布資料に重要項目は書き込むこと。

2021 年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース: 理学療法士科 II 部		学年	3	開講 区分	前期	担当教員 本田 勝久 先生			
授業科目名		必修 ・ 選択	必修	授業 形態	実技	時間数 (単位)	30 (1)	授業 回数	15
<p>[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>臨床現場においては対象者の病態の知識は当然ではある。病気から派生した障害に対して理学療法アプローチをかける上において、検査・測定は必須項目となる。本科では座学で学んだ内容を実践を通してその目的や意義の大切さ体得し、理学療法士として身構え気構え心構えを身につけてもらいたい。授業は本校開講以来、臨床現場を経験しながら本科カリキュラムを構築している専任教員が担当する。</p>									
<p>[到達目標]</p> <p>1. 理学療法における基本的な検査・測定の目的や意義を理解する。 2. 対象者に対して、実施する検査の目的や手順を説明できる。</p>									
[使用教材、参考文献等] 理学療法検査測定法					[準備学習・時間外学習] 検査の復習と実技練習を行うこと				
回	[授業概要]				到達目標(できるようになること)				
1	片麻痺機能検査1(ブルンストロームステージ・上田式)				ブルンストロームステージ・上田式を理解し患者に対して正しく検査することが出来る。				
2	片麻痺機能検査2(SIAS)				SIASを理解し正しく検査することが出来る。				
3	筋緊張検査				筋緊張検査を理解し正しく検査することが出来る。				
4	協調性検査				協調性検査を理解し正しく検査することが出来る。				
5	脳神経検査				脳神経検査を理解し正しく検査することが出来る。				
6	高次脳機能検査				高次脳機能検査を理解し正しく検査することが出来る。				
7	バランス検査(動的バランス・静的バランス) ファンクショナルリーチテスト バランス検査(FBS)・パークバランススケール				バランス機能検査を理解し正しく検査することが出来る。				
8	確認試験				試験により効果測定を行い、未修得部分を発見し再学習する。				
9	姿勢観察				姿勢観察の方法と、観察した内容を表現できるようになる。				
10	動作観察				動作観察の方法と、観察した内容を表現できるようになる。				
11	歩行観察				歩行観察の方法と、観察した内容を表現できるようになる。				
12	姿勢・動作・歩行分析				姿勢・動作・歩行観察した内容を分析できるようになる。				
13	姿勢・動作・歩行分析				姿勢・動作・歩行観察した内容を分析できるようになる。				
14	姿勢・動作・歩行分析				姿勢・動作・歩行観察した内容を分析できるようになる。				
15	総括				検査の必要性和意味を理解し、技術を身につける。				
[評価について] 筆記試験とレポートにて成績判定を行う 判定基準は学則施行細則にのっとり行う					[特記事項] 実技の練習を積極的に行うこと。 疑問点は担当教員にアドバイスを求めること。				

2021 年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	3	開講区分	前期	担当教員			石田 輝也 先生	
授業科目名		運動療法学実習		必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15	
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>発達障害のリハビリ施設で臨床経験を積んでいる理学療法士である。本科目は国家試験に多く出題される正常発達の評価・脳性麻痺を中心に、現在の小児理学療法における概要を臨床に即して学ぶ授業を行う。運動療法に限らず小児疾患に対する理学療法士としての支援方法を伝えるので、対象児の将来をイメージしながら授業に臨んでほしい。</p>												
<p>〔到達目標〕</p> <p>正常発達および小児疾患を理解し、それに適応する運動療法及び支援方法について理解し、説明できるようになる。</p>												
<p>〔使用教材、参考文献等〕</p> <p>プリント教材中心 参考文献:発達障害の理学療法 三輪書店</p>						<p>〔準備学習・時間外学習〕</p> <p>各回の授業開始時に前回授業の振り返り小テストを行う。専門用語の理解も問われるため復習して授業に臨むことが望ましい。</p>						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)						
1	概論、反射、反応 原始反射、姿勢反射					神経系の成熟と姿勢反射の発達、および運動発達との関連を理解し説明できるようになる。						
2	正常発達 (1) 背臥位、腹臥位、坐位の発達					正常発達における背臥位、腹臥位、座位の発達過程を理解し説明できるようになる。						
3	正常発達 (2) 立位、歩行、移動の発達					正常発達における立位、歩行、移動の発達過程を理解し説明できるようになる。						
4	正常発達 (3) 上肢機能の発達、社会性の発達					正常発達における上肢機能及び認知社会面の発達過程を理解し説明できるようになる。						
5	発達障害の評価、運動療法 概論 (1)					発達障害の概要を理解し、説明できるようになる。						
6	発達障害の評価、運動療法 概論 (2)					発達障害に対する評価方法、運動療法を理解し、説明できるようになる。						
7	発達障害の治療					発達障害に対する療育支援について理解し、説明できるようになり、運動療法を実施できるようになる。						
8	振り返り					1～7回の授業内容について理解を深め、より詳しく説明できるようになる。						
9	脳性麻痺 概略					脳性麻痺の概念、障害像、及び評価から治療までの概要を理解し、説明できるようになる。						
10	脳性麻痺 痙直型					痙直型脳性麻痺が呈する異常運動発達の特徴を理解し、説明できるようになる。						
11	脳性麻痺 アトーゼ型					アトーゼ型脳性麻痺が呈する異常運動発達の特徴を理解し、説明できるようになる。						
12	脳性麻痺 評価・治療					脳性麻痺の評価方法、治療方法を理解し、実施できるようになる。						
13	筋ジス 二分脊椎、ダウン症、その他小児特有疾患					様々な小児特有の疾患が呈する異常運動発達の特徴を理解し、説明できるようになる。						
14	重症心身障害児者					重症心身障害児者の概要と療育支援について理解し、説明できるようになる。						
15	小児理学療法とスポーツの関連について					小児理学療法とスポーツの関連について理解し、説明できるようになる。						
<p>〔評価について〕</p> <p>評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。</p>						<p>〔特記事項〕</p>						

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部		学年	3	開講区分	後期	担当教員			渡邊 健二 先生
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
老年学									
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>高齢者に特徴的な疾病、外傷とその治療やリハビリテーション実施上の問題点、また障害高齢者を受け入れる療養上の問題点について理解を図る。</p>									
<p>〔到達目標〕</p> <p>心身の健康から見た高齢者の特徴、加齢的变化の本質を理解できる。 高齢者が罹患しやすい疾患が修得できるようになる。</p>									
<p>〔使用教材、参考文献等〕</p> <p>「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学」 大内尉義編、医学書院</p>					<p>〔準備学習・時間外学習〕</p> <p>高齢者の生活に対する環境面の影響を理解するために、授業で取り扱う内容について自分の身近な環境の観察や考察を行うこと。</p>				
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)							
1	オリエンテーション 老年学とは	老年学の概念を理解できる。							
2	老化と加齢変化①—老化の機序、加齢に伴う生理機能の変化	加齢と老化の違いが理解できる。							
3	老化と加齢変化②—生理機能の変化、感覚・自立・高次脳機能の加齢変化など	生理機能の変化、感覚・自立・高次脳機能の加齢変化が理解できる。							
4	老化と加齢変化②—運動機能、精神心理面の加齢変化	運動機能、精神心理面の加齢変化を理解できる。							
5	高齢者の機能評価①—総合的機能評価、日常生活活動(ADLなど)の評価や測定方法、	日常生活活動(ADLなど)の評価や測定方法を理解できる。							
6	高齢者の機能評価②—障害老人の日常生活自立度の評価	日常生活活動(ADLなど)の評価や測定方法を理解できる。							
7	高齢者の機能評価③—知的機能の評価	知的機能の評価を理解できる。							
8	前半の振り返り 確認テスト	ここまで扱った内容を説明できる。							
9	老年症候群① 老年症候群の概念、意識障害など	老年症候群の概念、意識障害を理解できる。							
10	老年症候群② 不眠、手足のしびれ、言語障害、尿失禁、便秘、寝たきり	老年症候群の概念、各種障害を理解できる。							
11	老年症候群③ 廃用症候群、フレイル、サルコペニア、褥瘡、脱水、浮腫、嚥下障害、低栄養	老年症候群の概念、廃用性症候群を理解できる。							
12	循環器疾患①—高血圧症、低血圧症、不整脈(心房細動、洞不全症候群、ペースメーカー、アダムスストークス症候群)、AED、虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)	呼吸器疾患における病態を理解できる。							
13	循環器疾患②—心臓弁膜症、うっ血性心不全、大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症(ASO)など呼吸器疾患—高齢者肺炎、誤嚥性肺炎、慢性閉塞性肺疾患(COPD)	呼吸器疾患における病態を理解できる。							
14	精神神経疾患—アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症、Lewy小体型認知症泌尿器疾患—腎不全(血液透析など)、膀胱炎、前立腺肥大、前立腺癌	呼吸器疾患における病態を理解できる。							
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。							
<p>〔評価について〕</p> <p>評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。</p>					<p>〔特記事項〕</p> <p>毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。</p>				

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅱ部	学年	3	開講区分	後期	担当教員			堀内 秀憲 先生
授業科目名	スポーツリハビリテーション論	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30 (2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕 ・理学療法士としてスポーツ選手の治療～アスレティックリハビリテーションを行い選手のパフォーマンス発揮に貢献している教員が、スポーツリハビリテーションに必要な知識・技術を習得する授業を行う。 ・目指す職種のそれぞれの分野に共通する知識・技術もあるため、積み重ねることで将来につながることを意識しながら受講してほしい。									
〔到達目標〕 学生が今まで基礎科目で得た知識とスポーツ外傷・障害が発生するメカニズムをリンクさせ理解できるようになる。競技復帰に向けた治療プログラム・トレーニングプログラムを作成することができる。									
〔使用教材、参考文献等〕 ・配布資料 ・スポーツ傷害のリハビリテーション 第2版 (金原出版株式会社)					〔準備学習・時間外学習〕 1、2年生の講義内容が本講義のベースとなるので、該当する科目の復習しておくこと。 毎回の授業で学習した内容についてまとめること。				
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)							
1	スポーツ外傷/障害とアスレティックリハビリテーションの科学的基礎と基本	スポーツ外傷/障害とアスレティックリハビリテーションについて説明することができる。							
2	スポーツにおける下肢傷害とリハビリテーション①	スポーツにおける下肢の傷害と受傷機転について説明することができる。							
3	スポーツにおける下肢傷害とリハビリテーション②	スポーツにおける下肢の傷害における傷害部位だけでなく、その他の部位との関係性について説明することができる。							
4	スポーツにおける上肢傷害とリハビリテーション①	スポーツにおける上肢の傷害と受傷機転について説明することができる。その他の部位との関係性について説明することができる。							
5	スポーツにおける体幹障害とリハビリテーション①	スポーツにおける体幹の傷害と受傷機転について説明することができる。その他の部位との関係性について説明することができる。							
6	スポーツリハビリテーションにおける競技復帰のためのトレーニング①	機能的なトレーニングについて考え説明することができる。							
7	スポーツリハビリテーションにおける競技復帰のためのトレーニング②	スポーツ復帰の目安について考え説明することができる。							
8	確認テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていない部分を把握するとともに、その理解度を深める。							
9	スポーツリハビリテーションにおける臨床リリーズニング①	スポーツ外傷において損傷の程度とその組織を推定することができ、理由が説明できる。							
10	スポーツリハビリテーションにおける臨床リリーズニング②	スポーツ障害において損傷の程度とその組織を推定することができ、理由が説明できる。							
11	スポーツリハビリテーションにおける臨床リリーズニング③	スポーツ外傷においてスポーツ復帰を阻害している要因の一つを推定し、説明できるようになる。							
12	スポーツリハビリテーションにおける臨床リリーズニング④	スポーツ障害においてスポーツ復帰を阻害している要因の一つを推定し、説明できるようになる。							
13	スポーツリハビリテーションにおける臨床リリーズニング⑤	スポーツ障害においてスポーツ復帰を阻害している要因の一つを推定し、説明できるようになる。							
14	スポーツリハビリテーションにおける臨床リリーズニング⑥	スポーツ障害においてスポーツ復帰を阻害している要因の一つを推定し、説明できるようになる。							
15	まとめ								
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。筆記試験は確認テスト(50%)・期末テスト(50%)とする。					〔特記事項〕 ハーフパンツやTシャツ等の自らが動きやすい服装であり、かつ触診がしやすい服装で出席のこと。 実際の臨床場面を想定しているため、服装や髪形に留意すること。 スケジュールは変更の場合あり。				

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース:理学療法士科Ⅱ部		学年	3	開講区分	後期	担当教員 松田 輝洋 先生			
授業科目名 リハビリテーション医学		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) リハビリテーション現場で理学療法士として勤務している講師による、病気や外傷により生じた障害を医学的に診断、評価、治療などを、機能回復と社会復帰を総合的に学ぶ。また、治療概要、予後、及び復帰後の経過等について学習する。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕 PT・OTビジュアルテキスト専門基礎 リハビリテーション医学					〔準備学習・時間外学習〕 授業後は復習をして用語の意味を理解することが望ましい。				
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)							
1	・オリエンテーション ・障害の評価(主に神経学的所見の取り方・診かた)								
2	・脳卒中各論①(脳梗塞・脳卒中の診断・理学療法評価)	脳の解剖学生理学の復習や障害像を理解し、説明できる。							
3	・脳卒中各論①(脳梗塞・脳卒中の診断・理学療法評価)	高次脳機能とは何か、障害とはなにかを整理する。							
4	・内部疾患①(診断・理学療法評価)	心臓・呼吸解剖学生理学の復習や障害像を理解し、説明できる。							
5	・内部疾患②(診断・理学療法評価)	呼吸リハビリや心臓リハビリについて学ぶ。							
6	・神経筋疾患①(診断・理学療法評価)	パーキンソン病、筋萎縮性側頭硬化症などの疾患を知る。							
7	・神経筋疾患②(診断・理学療法評価)	負荷のかけ方やリハビリ評価に関して理解し、説明できる。							
8	確認テスト								
9	・脊髄損傷(診断・理学療法評価)	脊髄損傷の機序や概要を整理しリハビリ評価を理解し、説明できる。							
10	・関節リウマチ(診断・理学療法評価)	病態生理や治療を理解しリハビリ評価を確認し、説明できる。							
11	・小児疾患(診断・理学療法評価)	小児疾患を理解し、説明できる。							
12	・癌疾患(診断・理学療法評価)	疾患の概要や障害像を理解し、説明できる。							
13	・グループワーク課題 リハにおけるリスク管理・リハに必要な知識	疾患とリハビリやリスクをグループでまとめる。							
14	グループ発表	疾患とリハビリやリスクをグループでまとめたものを発表。							
15	期末テスト 解説								
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 学生は自主的に発言し、病態やリハビリテーションについての理解を深める。				

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	3	開講区分	後期	担当教員			田中 信一 先生	
授業科目名		運動療法学実習		必修/選択	必須	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15	
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>運動器系リハビリテーション現場で理学療法士として経験を積んだ専任教員から、筋や疼痛に対するひとつの徒手治療技術を学び、基本的な考え方と治療手技を習得する。部位別に治療の実際を紹介する。疼痛を緩和する徒手療法は、近年めざましい研究がなされリハビリテーションの分野では既に不可欠のものとなり、確固たる地位を築きつつあるのが現状である。実技に積極的に参加する姿勢が求められる。</p>												
<p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 筋を触察し、特定できる。 痛み、可動域の改善、筋力の向上を確認することができる。 疼痛抑制の基本的技術が実施できる。 												
<p>〔使用教材、参考文献等〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 骨格筋の形と触察法(大峰閣) 随時プリント配布 						<p>〔準備学習・時間外学習〕</p> <p>徒手療法を理解して行うために、前学年で学習したの筋の基礎知識が必要となる。技術習得のため、筋の触察を中心に復習することが望ましい。</p>						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)						
1	オリエンテーション 徒手療法の紹介 神経生理学的現象による痛みの抑制機序					徒手療法で用いる用語について説明することができる。 痛みの抑制機序について分類することができる。						
2	疼痛抑制手技の基本①					基本手技の手順を説明することができる。疼痛部位を確認し原因筋(線維)を推測することができる。						
3	疼痛抑制手技の基本②					筋連結、拮抗筋、デルマトームを考慮し、抑制部位を選択できる。痛みの変化を確認することができる。						
4	疼痛抑制手技の復習 上肢に対する評価および筋触察					基本手技が実施できる。 上肢の骨、筋のチェック事項を述べることができる。						
5	上肢に対する筋触察と徒手的アプローチ①					上肢の筋を触察し、特定することができる。 上肢に対する徒手的アプローチを実施することができる。						
6	上肢に対する筋触察と徒手的アプローチ②					上肢の筋を触察し、特定することができる。 上肢に対する徒手的アプローチを実施することができる。						
7	上肢に対する筋触察と徒手的アプローチ③					上肢の筋を触察し、特定することができる。 上肢に対する徒手的アプローチを実施することができる。						
8	確認テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。						
9	下肢に対する評価および筋触察					下肢の骨、筋のチェック事項を述べることができる。						
10	下肢に対する筋触察と徒手的アプローチ①					下肢の筋を触察し、特定することができる。 下肢に対する徒手的アプローチを実施することができる。						
11	下肢に対する筋触察と徒手的アプローチ② 体幹に対する評価および筋触察					下肢に対する徒手的アプローチを実施することができる。 体幹の骨、筋のチェック事項を述べることができる。						
12	体幹に対する筋触察と徒手的アプローチ①					体幹の筋を触察し、特定することができる。 下肢に対する徒手的アプローチを実施することができる。						
13	体幹に対する筋触察と徒手的アプローチ②					体幹の筋を触察し、特定することができる。 下肢に対する徒手的アプローチを実施することができる。						
14	片麻痺に対する評価と徒手的アプローチ①					スムーズな運動の条件を説明することができる。 片麻痺に対する徒手療法の目的を述べることができる。						
15	片麻痺に対する評価と徒手的アプローチ② 総括					下肢に対する徒手的アプローチを実施することができる。 習得できていないところを把握し、理解度を深める。						
<p>〔評価について〕</p> <p>評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。</p>						<p>〔特記事項〕</p> <p>授業では、体にマーキングを行う。触察を行いやすい服装で参加すること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。</p>						

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部		学年	3	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
国家試験対策講座 I									
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>リハビリテーション病院の院長である医師による理学療法士がリハビリテーションを行なうために必要な画像の評価、について国家試験に関連付けて学習する。特に理学療法士は医師の指示のもとによる医療行為が法律上定められており医師と同じ視点で画像診断も診られるようになってほしい。</p>									
<p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾患に即した画像の評価について診られるようになる ・画像診断で医師からどのような指示が出て理解できるようになる 									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕				
<ul style="list-style-type: none"> ・授業時配布資料 					普段から時事問題に関心を持ちながら理学療法士としての役割の広さを考えながら参加すること				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	リハビリテーションに必要な評価機器について① 総論レントゲン、CT、MRI、MRA、Echo				それぞれの機器について、名称と使用用途目的・対象疾患を理解できる				
2	リハビリテーションに必要な評価機器について② 総論レントゲン、CT、MRI、MRA、Echo				それぞれの機器について、名称と使用用途目的・対象疾患を理解できる				
3	画像評価機器について 脳血浮腫、ヘルニアなど				画像評価機器を使った画像診断が診られるようになる				
4	画像診断、解剖学 脳血管障害				画像診断による脳血管障害を診られるようになる				
5	画像診断、解剖学 脳梗塞				画像診断による脳梗塞を診られるようになる				
6	画像診断、解剖学 脳出血				画像診断による脳出血を診られるようになる				
7	画像診断、解剖学 脳腫瘍				画像診断による脳腫瘍を診られるようになる				
8	前半の復習 確認テスト				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
9	画像診断、解剖学 頸部				解剖学的画像診断による頸部を診られるようになる				
10	画像診断、解剖学 胸部				解剖学的画像診断による胸部を診られるようになる				
11	画像診断、解剖学 腰部				解剖学的画像診断による腰部を診られるようになる				
12	画像診断、解剖学 上肢				解剖学的画像診断による上肢を診られるようになる				
13	画像診断、解剖学 骨盤・下肢				解剖学的画像診断による骨盤・下肢を診られるようになる				
14	画像診断、解剖学 心電図1				解剖学的画像診断による心電図を診ることができる				
15	画像診断、解剖学 心電図2				解剖学的画像診断による心電図を診ることができる				
〔評価について〕					〔特記事項〕				
評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					国家試験に対応できるように予習復習を自主的に行う。				

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部	学年	3	開講区分	後期	担当教員			室井 大佑 先生
授業科目名		疾患別理学療法学実習Ⅱ	必修・選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 認定理学療法士であり急性期から回復期リハビリまで臨床経験のある講師による授業である。本教科では、臨床現場で接する機会の多い循環器系・内部疾患系に関連する領域の基礎知識を広く理解し、それぞれの疾患に対応した理学療法の評価と治療法の基本を身につけることである。</p>										
<p>〔到達目標〕 循環、腎臓、癌に関する解剖学・生理学的な基本知識を整理し、循環・呼吸機能の評価、問題点抽出、治療到達目標設定と運動療法のプログラム作成、リスク管理などについて講義および実習を行う。</p>										
<p>〔使用教材、参考文献等〕 内部障害理学療法学テキスト</p>										
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)								
1	・オリエンテーション 【内部障害】 内部障害総論 【循環器】 循環器理学療法総論	内部障害の範囲について理解する。酸素搬送系の障害を理解し、説明できる。								
2	・【循環器】 解剖・生理 確認・復習	循環、呼吸、代謝、排泄の生理学を復習する。								
3	・【循環器】 検査・測定①	循環器系の役割と運動時の循環器系のメカニズムを理解し、疾患の評価を理解できる。								
4	・【循環器】 検査・測定②(運動負荷試験)	栄養障害の原因をふまえ、骨格筋や運動耐容能に与える影響を説明できるようにする。								
5	・【循環器】 検査・測定③(心電図)	正常心電図波形を理解する。								
6	・【循環器】 運動療法①実技 疾患各論①・②	各循環器疾患の疫学的特徴を理解する。実技にて心拍変動をみるため心電図モニター観察する。								
7	・【循環器】 運動療法②実技 疾患各論③・④	各循環器疾患の疫学的特徴を理解する。実技にて心拍変動をみるため心電図モニター観察する。								
8	確認テスト									
9	・【腎疾患】 腎臓の構造、機能、障害	腎疾患患者における運動機能低下のメカニズムについて理解する。								
10	・【腎疾患】 慢性腎不全(CKD)、血液データ、運動療法	腎機能障害の特徴と理学療法プログラムについて理解する。								
11	・【糖尿病】 疾患概要、障害像、治療法	糖尿病の診断基準、成因分類、病態など理解し、説明できる。								
12	・【糖尿病】 評価法、アプローチ、リスク管理	理学療法の役割を理解し、リスク管理の重要性を学ぶ。								
13	・【糖尿病】 運動療法	トレーニングの効果や運動強度の必要性を理解する。								
14	・【がん】 疾患概要、治療、リハビリテーション	がんにおける各種治療から生じる、理学療法の対象障害を理解し、説明できる。								
15	期末テスト 解説									
<p>〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。</p>					<p>〔特記事項〕 学生は自主的に発言し、内部疾患の病態やリハビリテーションについての理解を深める。</p>					

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部		学年	3	開講区分	後期	担当教員			本田 勝久 先生	
授業科目名		必修/選択	必須	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15	
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>理学療法士として臨床現場での経験豊富な教員が、実習をスムーズに遂行できるよう実習前後における姿勢と心構えを身につける授業を行なう。また、実践的な臨床実習場面を想定した、実技を中心に演習し評価実習および総合臨床実習に必要な基本的な知識、技能、態度を養う授業を行なう。臨床の現場で患者を配慮した安全で効率的な検査測定が重要となることを意識しながら受講してほしい。講義と演習の授業となるため遅刻欠席はせず、授業内だけでなく自主練習をして授業に臨んでほしい。</p>										
<p>〔到達目標〕</p> <p>①対象者に必要な検査測定を選択することができる。②選択した検査測定を正確かつ安全に実施できる。③患者の状態に応じた適切な介助を行うことができる。④検査結果の解釈を説明することができる。</p>										
〔使用教材、参考文献等〕 理学療法評価学 改訂第4版 臨床実習フィールドガイド(南江堂)					〔準備学習・時間外学習〕 検査測定の目的、方法、動作介助方法を再度確認してくること。授業後は、復習をして確実に身に付けることが望ましい。					
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)								
1	授業のオリエンテーション 問題点の抽出と評価の統合の進め方	専門職に必要な資質、態度について理解することができる。								
2	問題点の抽出と評価の統合 中枢疾患 グループワーク	中枢疾患における問題点を洗い出せる(チームで行うこと)								
3	問題点の抽出と評価の統合 中枢疾患 グループワーク プレゼンテーション ディスカッション	中枢疾患における問題点を検証できる(チームで行うこと)								
4	問題点の抽出と評価の統合 整形疾患 グループワーク	整形疾患における問題点を洗い出せる(チームで行うこと)								
5	問題点の抽出と評価の統合 整形疾患 グループワーク プレゼンテーション ディスカッション	整形疾患における問題点を検証できる(チームで行うこと)								
6	問題点の抽出と評価の統合 内部疾患 * 中間テスト症例提示	中枢疾患における問題点を統合できる(チームで行うこと)								
7	問題点の抽出と評価の統合 整形疾患 * 確認テスト症例提示	整形疾患における問題点を統合できる(チームで行うこと)								
8	確認テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていない部分を把握するとともにその理解度を深める								
9	診療録記載の考え方1 SOAPについて	SOAPの内容を理解できる								
10	診療録記載の考え方2 SOAPの実践	SOAPの内容を活用できる								
11	統合と解釈の進め方1 ボトムダウン、評価の意義	統合と解釈が理解できる								
12	統合と解釈の進め方2 評価の意義と動作の関連性	統合と解釈を学んで理学療法評価につなげることが出来る								
13	統合と解釈の進め方3 症例検討 個人ワーク	SOAPを使って症例検討につなげることが出来る								
14	統合と解釈の進め方4 症例検討 グループディスカッション	SOAPを使って症例検討につなげることが出来る								
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める								
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 事前に提示された課題について調べ、キーワードを説明できるように準備する。授業内だけでなく学生同士で実技練習を行い、技術向上に努めること。疑問点は担当教員にアドバイスをもらうこと。					

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		学年	3年	開講区分	後期	担当教員			
理学療法士科Ⅱ部						齋藤 悠里 先生			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
精神医学									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
<p>学習内容: 理学療法士として、必要とされる精神疾患全般について学ぶ。</p> <p>心構え: 教授者が実際に精神科クリニックで接する精神疾患の患者さんを例に様々なケースを伝えていくことで、それぞれの精神疾患について理解が深まるように指導する。</p>									
〔到達目標〕									
理学療法士が臨床現場で、精神疾患を同時に罹患している患者さんに施術するとき、その精神状態を知っていることは重要である。どのような精神疾患があり、その精神状態を理解できるようになる。									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕				
学生のための精神医学					毎回、前回の復習をして、その内容について小テストを行う。				
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)							
1	精神医学についての歴史と身体医学との違いを概説し精神医学の概念、及び精神医学面接法と診断の過程について学ぶ	精神医学と身体医学の違いを説明でき、精神医学の面接法と診断過程を定義できる。							
2	統合失調症についてのケースの紹介を通して、疾患イメージを定着させる。症状による分類の理解。	統合失調症の疾患について説明でき、症状による分類が出来る							
3	統合失調症について、1次妄想・2次妄想など様々な症状の詳解とリアルなイメージ作り。	統合失調症の様々な症状を具体的に説明できる							
4	認知症の分類とそれぞれの原因について学ぶ	認知症のそれぞれの疾患の原因と症状を区別できる							
5	てんかんの分類と症状、及び依存症の分類と離脱症状を学ぶ	てんかんの種類による症状を区別でき、依存症の説明が出来る							
6	様々な気分障害の症状及び治療法について学ぶ	様々な気分障害を区別でき、それぞれの症状を説明できる							
7	様々な神経症障害の症状及び治療法について学ぶ	それぞれの神経症障害を説明でき、症状から定義できる							
8	確認テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。							
9	摂食障害などの生理的障害について、その症状と治療法について学ぶ	摂食障害や睡眠障害について、症状と治療法について説明できる							
10	11種類のパーソナリティ障害、それぞれの特徴と対処法について学ぶ	それぞれのパーソナリティ障害について、区別ができ、それぞれの障害について説明が出来る							
11	児童期に注目される発達心理学と発達障害について学ぶ	発達段階について区別でき、発達障害について説明できる							
12	思春期・青年期に注目される特徴と精神障害について学ぶ	思春期以降に起きる精神疾患について詳しく説明できる							
13	高齢者の特徴と高齢者の精神障害について学ぶ	高齢者の心理状態と特徴的な精神疾患について説明できる							
14	精神障害における薬物療法について学ぶ	様々な精神疾患における薬物療法の説明が出来る							
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。							
〔評価について〕					〔特記事項〕				
評価は、確認テスト(50点)と期末テスト(50点)および小テストの合計で評価する。評価は学則規定に準ずる					授業内だけでなく、自主的な学習を促してより深い理解を求める				

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部	学年 3	開講区分 後期	担当教員 本田 勝久 先生
授業科目名 地域リハビリテーション論	必修/選択 必修	授業形態 講義	時間数(単位) 15(1) 授業回数 8

〔授業の学習内容と心構え〕

在宅復帰も診るリハビリ現場で臨床を積んだ理学療法士である専任教員による日本の社会保険制度を理解する。特に地域包括ケアシステムを見据えた地域リハビリテーションにおける関連法規とシステムはよく理解して現場で活用してほしい。

〔到達目標〕

医療・福祉・介護業務における、行政と法的制度との関わりを理解する。
 ・その中での、理学療法業務および概念を理解する。
 ・地域リハビリテーションの概要を理解する。

〔使用教材、参考文献等〕

・授業時配布資料
 標準理学療法学 地域理学療法学 第3版(医学書院)

〔準備学習・時間外学習〕

普段から時事問題に関心を持ち理学療法士としての役割の広さを考えながら参加すること。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション・社会保険の役割と制度の仕組み・労災保険・雇用保険の仕組み	保険制度の概念を理解できる
2	年金保険の仕組み	国民皆保険制度と国民年金の違いを理解する
3	医療保険の仕組み(1)	医療保険制度の仕組みを理解する
4	医療保険の仕組み(2)	医療保険制度の種類を理解できる
5	介護保険の仕組み(1)	介護保険制度の仕組みを理解する
6	介護保険の仕組み(2)	介護保険制度の種類を理解できる
7	保険の種類による保険点数の違い	リハビリにおける診療報酬請求にかかわる保険点数を理解できる
8	前半の復習 期末テスト	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

〔評価について〕

評価は筆記試験で行う。
 筆記試験は確認テスト(50点)と総括後の期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部	学年	3	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名			必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	15(1)	授業回数	8
地域理学療法学										
<p>〔授業の学習内容と心構え〕</p> <p>在宅復帰も診るリハビリ現場で臨床を積んだ理学療法士である専任教員による日本の社会保険制度を理解する。在宅リハビリ・デイサービス・デイケアシステムなど医療ではなく、地域のリハビリテーションにおける現状と地域包括ケアシステムを理解する。</p>										
<p>〔到達目標〕</p> <p>医療・福祉・介護業務における、行政と法的制度との関わりを理解する。 ・その中で理学療法業務および概念を理解する。 ・地域リハビリテーションの概要を理解する。</p>										
<p>〔使用教材、参考文献等〕</p> <p>・授業時配布資料 標準理学療法学 地域理学療法学 第3版(医学書院)</p>					<p>〔準備学習・時間外学習〕</p> <p>普段から時事問題に関心を持ち、理学療法士としての役割の広さを考えて参加すること。</p>					
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション 第1章 地域理学療法概念				第1章 地域理学療法概念を理解する					
2	第2章 地域理学療法を支えるシステム				I. 福祉関連法的諸制度(1)の仕組みを理解する					
3	第2章 地域理学療法を支えるシステム				I. 福祉関連法的諸制度(2)の仕組みを理解する					
4	第2章 地域理学療法を支えるシステム				V. 社会資源 VI. 行政における理学療法士の役割を理解する					
5	第2章 地域理学療法を支えるシステム				VII. 関連機関と地域連携を理解する					
6	第2章 地域理学療法を支えるシステム				VII. 関連機関と地域連携(地域包括ケア)の意義を理解する					
7	第3章 地域理学療法の展開				VIII～X. 地域における連携 地域包括ケアシステムを理解する					
8	前半の復習 期末テスト				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9										
10										
11										
12										
13										
14										
15										
<p>〔評価について〕</p> <p>評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と総括後の期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。</p>					<p>〔特記事項〕</p> <p>毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。</p>					

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部		学年	3	開講区分	後期	担当教員			水梨 将宏 先生
授業科目名		必修/選択	必須	授業形態	実技	時間数(単位)	30 (1)	授業回数	15
<p>[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>回復期リハビリ病院で理学療法士として勤務している講師による授業。日常生活を改善させるためには疾患・年齢・能力を理解し身体状況にあったADL支援機器の選択、基本動作、移動動作介助法・指導方法が必要になる。患者様の視点で考察して欲しい。</p> <p>[到達目標]</p> <p>疾患の特徴を理解し一人一人の対象者の能力に適した介助方法、指導方法を実践できるようになる。</p>									
[使用教材、参考文献等]					[準備学習・時間外学習]				
ADL 羊土社 新版 日常生活活動 医歯薬出版					日常生活活動は、リハビリ対象者だけのものではなく自分たちの生活の中でも行っていることである。常にどのようにすれば上手いくのかを考えること。				
回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)							
1	日常生活動作評価・QOL評価の時期・問診・実施事項	評価の目的・時期・問診の方法を理解し実践できる。							
2	基本的動観察①(寝返り、起き上がり・長座位)	対象者の持ち方起き上がり、立ち上がりの基本を理解し実践できる。							
3	基本的動作の観察②(床からの起き上がり・座位立ち上がり)	介助の方法、指導方法を理解し説明し実践できるようになる。							
4	基本的動作の介助方法 ③(端座位・車いす座位・立位)	基本的な姿勢保持 介助方法を理解し説明し実践できるようになる。							
5	疾患別 動作介助方法・指導方法 認知症	病態を理解し、認知症の方のコミュニケーションの取り方・ADLの指導方法・予防について学び実践できるようになる。							
6	疾患別 動作介助方法・指導方法 脳血管疾患①	病態を理解し、脳血管障害の方の寝返り、起き上がり介助方法・動作の指導方法を学び実践できるようになる。							
7	疾患別 動作介助方法・指導方法 脳血管疾患②	端座位・立ち上がり、移乗、床から立ち上がり介助方法・動作の指導方法について実践できるようになる。							
8	確認試験	筆記試験にて効果判定を実施、それにより自分が理解できていない箇所を把握する。							
9	疾患別 動作介助方法・指導方法 脊髄損傷①	病態を理解し、脊髄損傷の方の寝返り、起き上がりの介助方法、指導方法を学び実践できる。							
10	疾患別 動作介助方法・指導方法 脊髄損傷②	脊髄損傷の方の移乗動作 介助方法・自立するための指導法を学び実践できるようになる。							
11	疾患別 動作介助方法・指導方法 関節リウマチ	病態を理解し、関節リウマチの方の動作介助および指導方法・生活指導を学び実践できる。							
12	疾患別 動作介助方法・指導方法 人工関節置換術	病態を理解し、変形性股関節症・膝関節症の方の動作介助および日常生活注意点の指導法を学び実践できる。							
13	疾患別 動作介助方法・生活指導方 呼吸器疾患	病態を理解し、呼吸器疾患の生活動作、姿勢、歩行について指導方法を学び実践できる。							
14	疾患別 動作介助方法・指導方法 神経疾患	ALS、ギランバレー症候群、脊髄小脳変性症疾患の方の病態を理解し、補助具、寝返り・起き上がり、生活指導方法を学び実践できる。							
15	摂食・嚥下障害 総論 実技	嚥下障害を理解し、護食、とろみ食実施体験することで作成方法、介助方法を実践する。							
[評価について]					[特記事項]				
確認試験・期末試験とする。 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認試験(50点)と期末試験(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					配布資料に重要項目は書き込むこと。				

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部	学年	3	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名							田中 信一 先生			
理学療法検査・測定法実習			必修/選択	必須	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
<p>[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>検査測定結果の解釈、臨床思考過程の基本的な流れを習得する授業を臨床現場でリハビリテーションに携わっている教員が行なう。臨床現場において効果的な理学療法を患者様に提供できる基盤となることを意識して受講してほしい。</p>										
<p>[到達目標]</p> <p>①臨床思考過程の流れを把握することができる。②各検査結果について解釈できる。③問題点を関連づけることができる。④問題点に対して仮説をたてることができる。</p>										
<p>[使用教材、参考文献等]</p> <p>理学療法評価学 改訂第4版 臨床実習フィールドガイド(南江堂)</p>						<p>[準備学習・時間外学習]</p> <p>提示する課題におけるキーワードについて確認してくる。積極的に事前学習を実施すること。</p>				
回	[授業概要]		到達目標(できるようになること)							
1	統合と解釈・問題点の抽出ワーク		臨床思考過程と統合と解釈・問題点について理解することができる。							
2	ケーススタディ①骨関節疾患		ケースに対して問題点を関連付け、ICFに分類することができる。							
3	ケーススタディ②骨関節疾患		ケースに対して問題点を関連付け、ICFに分類することができる。							
4	ケーススタディ③脳血管疾患		ケースに対して問題点を関連付け、ICFに分類することができる。							
5	ケーススタディ④神経筋疾患		ケースに対して問題点を関連付け、ICFに分類することができる。							
6	ケーススタディ⑤心疾患		ケースに対して問題点を関連付け、ICFに分類することができる。							
7	ケーススタディ⑥廃用症候群		ケースに対して問題点を関連付け、ICFに分類することができる。							
8	ケーススタディ まとめ		習得できていないところを把握し、理解度を深める。							
9	PBL グループ学習		問題点に対して仮説をたて検討することができる。グループで強調し、テーマについて討論することができる。							
10	PBL グループ学習		問題点に対して仮説をたて検討することができる。グループで強調し、テーマについて討論することができる。							
11	PBL グループ学習		問題点に対して仮説をたて検討することができる。グループで強調し、テーマについて討論することができる。							
12	PBL グループ学習		問題点に対して仮説をたて検討することができる。グループで強調し、テーマについて討論することができる。							
13	PBL グループ学習		問題点に対して仮説をたて検討することができる。グループで強調し、テーマについて討論することができる。							
14	PBL グループ学習		問題点に対して仮説をたて検討することができる。グループで強調し、テーマについて討論することができる。							
15	総括		習得できていないところを把握し、理解度を深める。							
<p>[評価について]</p> <p>レポートの合計点より成績判定。 評価は学則規定に準ずる。</p>						<p>[特記事項]</p> <p>毎授業において重要事項についてはリメモをとること。 疑問点は担当教員にアドバイスをもらうこと。</p>				